

第2回 加茂駅周辺まちなかエリアプラットフォーム全体会 議事要旨

1 日時:2026年3月24日(火)午後2時から午後4時

2 場所:加茂市役所3階 301~302会議室

3 出席者(敬称略)

田邊 良夫(加茂市商店街協同組合 理事長)
萩野 正和(株式会社 connel 代表取締役)
松井 大輔(新潟大学工学部工学科 准教授)
加藤 はと子(全国「道の駅」女性駅長会 会長)
齋藤 貴元(第四北越銀行 加茂支店 支店長)
夏目 一寿(加茂信用金庫 総合企画部 課長 ※理事長代理) ※オンライン出席
五十嵐 裕幸(加茂市 副市長 ※市長代理)
米山 哲郎(新潟県三条地域振興局 局長)
丸山 優瑠(加茂青年会議所 理事長)
青山 准(NTT 東日本 新潟支店 地域基盤ビジネス課長 ※副支店長代理)

欠席者

長澤 敬一(加茂商工会議所 会頭)
斎藤 信明(NST 新潟総合テレビ 営業事業本部 新潟営業部 専任部長 兼 県央地区担当)
杉山 学(新潟経営大学 学長)

事務局:政策推進課

4 議事

(1). 開会（代表あいさつ：藤田市長欠席のため、代理で副市長）

(2). 議題1.令和7年度下半期における取組状況について

○【資料3】令和7年度下半期の振り返りについて

事務局から、資料3をもとに令和7年度のエリプラの取組状況について説明した。

○【資料4】取組報告1:まちなかコンシェルジュとまち歩きガイドについて

観光協会から、資料4をもとにまちなかコンシェルジュとまち歩きガイドについて説明があった。

【委員】まちなかコンシェルジュについて、先ほどの説明の中にもあったような商店街の中では車をどこに停めたら良いかなどもっと気軽な問い合わせが増えると良い。そのために、卓上 POP の「次の目的地はお決まりですか？」という見出しが観光客向けなので「まちなかご案内します」など幅広いターゲットに向けたものに変更してはどうか。

【委員】まちなかコンシェルジュについて、卓上 POP はコンシェルジュとお客さんのやりとりを促すものだと思うが、対面でのコミュニケーションにハードルを感じる人向けに QR コードをつけて問い合わせができるようにしてはどうか。また、課題として新しいコンシェルジュの追加とあるが、既に協力を見込んでいる店舗はあるのか。

【説明者】まちなかコンシェルジュを活用してもらうお客さんのメインターゲットは60歳代以上の方を想定している。60歳代以上の方であればデジタルよりもその場でコミュニケーションをとることが多いと思われるため QR コードなどの方法は考えていない。また、新しいコンシェルジュについてはまだ声掛けができていないが、良い取組だと言ってくれている人もいますのでそのような人を中心に拡大していきたい。

【事務局】まち歩きガイドについて、ガイドの養成も当初の検討にあったと思うが今後はどのような展開を考えているのか。

【説明者】弥彦村や五泉市は観光協会の事業としてボランティアガイドの養成を行っているという。一方で、加茂市の場合は観光ガイドの需要がどれだけあるのかを考えると、ガイドの養成にお金をかけるにはまだ早い段階だと考えている。現状としては、ガイド養成のためにもどのようなまち歩きテーマの需要が高いのかを探っている段階。

【委員】まち歩きガイドについて、今後のツアー内容や時期など決まっていることはあるか。

【説明者】旅行会社との共同企画として今年の5月に1つ開催を予定している。その他のツアーについては検討中。

【委員】ツアーはたくさんやらなければ何の需要があるのかも分からないと思うのでぜひ回数を増やしてほしい。また、八十里越が開通することで県央エリアを巡ってもらう観光ルートを県観光協会が主体で作成する予定。加茂のまち歩きもコンテンツになり得ると思うのでそのあたりも含めて考えてみてほしい。

○【資料5】取組報告2:シティプロモーション・情報発信について

株式会社新潟放送から、資料5をもとに情報発信・シティプロモーションについて説明があった。

【委員】Instagramでのデジタル広告について、ターゲットが18～64歳と幅広いと感じたが年代別にどの層のクリック数が多いのかなど分かれば教えてほしい。また、クリエイター塾には若い方も参加しているように思えた。実際にインフルエンサーとしてデビューした人がいるのであれば紹介してほしい。

【説明者】Instagramのデジタル広告については20～30歳代の女性をメインターゲットにしている、実際のリアクションも同様の年代の方からのものが多かった。クーポンの内容も20～30歳代の女性を想定したもので、ターゲットの設定と広告配信に対する結果は一定の成果が出たと感じている。また、インフルエンサーとして具体的に活躍している方がいるかどうかは把握していないが、既にセミプロのような技術のある方が数名いる印象。

【委員】デジタル広告のターゲットが20～30歳代なのであれば、観光協会が別途取り組んでいる卓上POPのターゲットとはずれている。そこをリンクさせるとより効果が出るのではないか。また、クリエイター塾についてはぜひインフルエンサーを輩出してほしい。他自治体の例を見るとインフルエンサーの影響で実際に現地へ旅行で訪れた方がいるなど影響力を実感している。

【事務局】クリエイター塾について補足すると、参加者の中には企業の広報を担当している方などもいたので、そのような方はご自身の仕事に技術が生かされていると思う。また、市外の方がTikTokの投稿者で受講後には投稿数が増えて成果が出ている。他の自治体で開催したクリエイター塾では既にインフルエンサーを輩出できているので加茂市でも誕生を期待している。

【委員】クリエイター塾の成果物について今後も配信を期待しているが、来年度も作成されるものと思っていいか。

【事務局】来年度もクリエイター塾を開催するので成果品の動画を市のYouTubeやホームページなどで公開していく予定。その他、市のアカウントだけではなく個人のアカウントにクリエイター塾で制作したものをあげている参加者もいた。

【委員】まちなかコンシェルジュの紹介カードにこの動画のQRコードなどが記載されていても良いのではないか。

【委員】成果物について著作権の問題もあると思うが、観光協会がまちなかに移るのであれば目の前の通りに向けて動画を流して宣伝できると良い。また、次回のクリエイター塾のカリキュラムの中で加茂市の取組に参加して技術を学んでいることを個人のアカウントで投稿することを課題にしても良いのではないか。

【事務局】クリエイター塾についてはぜひ検討したい。

【委員】今後の提案として地元企業の魅力を発信していくとあるが、その先の「このまちで働きたい・定住したい」につなげるには大きなステップだと感じる。何か具体策はあるのか。

【説明者】具体的な設計はできていないが、まちあるきや企業体験を通じて関心を持ってもらいたいと考えている。動画を制作することでそのきっかけづくりになれば良い。

【委員】今あるコンテンツを発信していくことも大事だが、まだ発展途上のコンテンツを磨いていくことも大事だと思う。

【事務局】コンテンツを磨くという点でその対象となるコンテンツを選ぶのも難しい。加茂山だけでも青海神社、リス園など様々な要素があるため、どの部分をどう磨くかに関してはぜひみなさんから意見をいただきたい。

【委員】そのあたりをワーキンググループで議論できればと思う。

○【資料6】取組報告3：加茂川を泳ぐ鯉のぼりについて

観光協会から、資料6をもとに加茂川を泳ぐ鯉のぼりについて説明があった。

【委員】平成元年から実施とあるが、全国の中でも早めに始めている強みがあるにもかかわらず他自治体と差別化できていないと思う。歴史もブランドになると思うし、今回から協賛もいただくとするので考えてみてほしい。

【委員】今年から開催時期が変わり雪椿まつりの時期を外すことになると思うので、来客数がどう変わるのか注目してほしい。また、開催期間も変わることで今年はやっていないのかと勘違いする人が出ないように周知をしっかりとしてほしい。

【説明者】開催時期を雪椿まつりとずらすことで、デメリットとしては相乗効果が生み出しにくい点がある。反対にメリットとしては駐車場の混雑が減るので車を停められず諦めて帰る人が減るのではないかと想定している。今年やってみて集客がどうなるかよく把握したい。また、期間変更については「広報かも」に掲載するほか、観光協会のホームページでもお知らせする。その他、新潟ふるさと村の展示スペースを借りて鯉のぼりのPRをする予定なのでそこでも周知したい。

【委員】鯉のぼりを見るついでに他自治体のイベントに訪れる方もいると思うので開催期間をずらすことで人の動きが変わると思う。そのあたりも確認した方が良い。

【説明者】事前に他自治体の情報もキャッチアップした上で確認していきたい。

【委員】エリプラとしてはまちなかの回遊を促したい。簡単なもので良いので来ている人たちが次にどこに向かおうとしているのかアンケートを取ってはどうか。また、鯉のぼりの写真が斜めからのものが多いので川を中心から見上げた形で撮れると面白い。

【説明者】アンケートについては2年前の花見の時期に一度実施したが、今年は花見の時期とずれるのでどうなるか気になるころである。実施について検討したい。

【委員】お昼を食べた場所もアンケートで聞けるといい。

【委員】単にアンケートを収集しようとする就非常にかかるが、道の駅国上で実際に行っていることとして、買い物してくれた方に日帰り温泉てまりの湯で使える無料タオル券を渡している。それがデータ収集にもつながってくるので、今年は協賛がつくのであればお店のクーポン券を渡して使われた部分だけ観光協会が支払うなど工夫しても良いと思う。

【事務局】今年度から鯉のぼりの準備に児童・生徒が関わったと聞いた。小中学校の統合に向けて準備している中で、このような学校をまたいだ取組は非常に良いと思う。

【説明者】加茂小学校も須田中学校も学校から声をかけていただいた。今後は校長会に参加して観光協会から声掛けをする予定。

○【口頭説明】商店街への新規出店者支援について

商工観光課から、商店街への新規出店者支援について説明があった。

【委員】事業承継は市の制度融資だけでなく民間の融資にもつながる可能性が高い。民間であれば設備資金についても柔軟に対応できる部分があると思うので、何か案件があれば民間も活用してほしい。

【説明者】地元金融機関との連携は非常に重要だと思うので今後も強化していきたい。

【委員】マッチングの支援は非常に良い取組だと思うので今後も続けてほしい。ただ、最初の段階でお店のヒアリングを丁寧に行いあらかじめミスマッチを防ぐようにしてほしい。

○【資料7】取組報告4:その他関連する取組やイベントについて

事務局から、資料7をもとにその他関連する取組やイベントについて説明した。

(3). 議題2.令和8年度を取組予定について

○【資料8】令和8年度を取組予定について

事務局から、資料8をもとに令和8年度を取組予定について説明した。

(4). 事務連絡

【事務局】来年度の予定として、上半期にWG2回、全体会1回、下半期にWG2回、全体会1回の開催を予定している。ゴールデンウィーク後に上半期の日程調整を依頼する予定であり、第1回WGは6月下旬～7月上旬ごろを見込んでいます。

以上